

MEMBER

地元岡山を中心に
大学生を含む
幅広い選手層で
今シーズンに
挑みます。



COACH

熱い情熱で
チームを牽引する
経験豊富なコーチ



部長 鈴木 明生

高校生・大学生の内定メンバー

- 大島 杏花 (東京女子体育大卒(奥込) KYOJKA OHSHIMA)
- 松嶋 流風 (神戸親和女子大卒(奥込) RUIKA MATSUSHIMA)
- 山口 愛美 (大阪大谷大卒(奥込) AIMI YAMAGUCHI)
- 東本 夏季 (大阪大谷大卒(奥込) NATSUKI HIGASHIMOTO)
- 岩本 梨音 (大阪大谷大卒 RION IWAMOTO)
- 桑原 明日香 (富士学苑高卒 ASUKA KUWABARA)

結成への思い
Thoughts for the team

倉敷からVリーグへ。
バレーボールで倉敷を
盛り上げたい。
そして、もっと戦える
フィールドを求めて



鈴木 秀生 監督
HIDEO SUZUKI

ともに倉敷で、岡山でより盛り上がるスポーツとして貢献できることを誇りに感じています。監督として、チームを育てる使命を胸に熱く感動できるプレー・試合を皆様にご覧いただけるよう努めてまいります。

倉敷アブレイズ専用「トレーニングセンター」
専用コートとトレーニングジムを備え
選手の育成をバックアップ。



選手専用の練習施設で思いのまま練習することができ、選手育成の大事な要素になっている。



トレーニングジムやシャワー室など選手は負担なく練習ができる環境が整っている。

第2回トライアウト・セレクション選考会開催決定!! 2019年7月6日(土)・7日(日) 詳しくはHPをご覧ください。



勢いづくチーム 2連続優勝飾る!

REPORT 01 令和元年度 第13回中国6人制バレーボールクラブカップ
第10回全国6人制バレーボールリーグ総合優勝大会
中・四国ブロック地域リーグ大会
男女選手権大会を優勝で飾る。

REPORT 02 メンバーレポート

冴えるチームプレーが 連続優勝を決めた

令和元年度 第13回中国6人制バレーボールクラブカップ男女選手権大会
第10回全国6人制バレーボールリーグ総合優勝大会中・四国ブロック地域リーグ大会



REPORT
01

令和元年度 第13回中国6人制 バレーボールクラブカップ 男女選手権大会

予選リーグを2連勝で迎えた決勝・順位トーナメント戦は、シードチームとして登場。試合序盤から思わぬミスが連続してしまい次々と相手チームに得点を許してしまう。今ひとつリズムに乗れないアブレイズは、監督自らタイムアウトを要求し選手を落ち着かせ、気持ちを切り替えた。本来のペースを取り戻し追いつくも、一進一退の攻防が続く中、1セット目を勝利する。今大会セッターを務めた10番宇波裕希が攻撃の起点となるセットを増産し攻撃の流れをつくりゲームをまとめた。第2セットは、リズムを取り戻したアブレイズがゲームを優位に進め終始勢いを崩さず、勝利を収めた。結成間もないチームでの経験不足が露呈した感否めないがそれを取り戻すことができたことでよりメンバーにとって意味のある試合結果だったと監督は述べていた。決勝2試合目は、またしても相手はIPUクラブ。大学生でありながらバランスのとれた選手層の厚いチーム。公式戦では2戦2勝とアブレイズが勝利を収めているが、試合では何が起るか分からないものだ。第1セットはアブレイズペースでセットカウントを奪うものの第2セットからIPUクラブが流れをつかみ、アブレイズは反撃も及ばず2セット目を奪われてしまう。互いに捨うバレーが続くIPUクラブも粘る中で逆転される展開に。会場に詰め掛けた観客のボルテージが一気に上がっていき声援がメンバーを鼓舞する。今大会のラッキーガールになった6番仁熊愛の攻撃が決まり第3セットを勝ち取り2連勝目の優勝を手にした。



結成から2連続優勝を決めたアブレイズメンバー。今大会は価値ある勝利だった。



7番藤原澤奈は相手ブロッカーの外側を狙ったブロックアウトも決め強気攻めしていた。セッター10番宇波裕希のトスをすると見せかけてのツーアタックも良く決まった。

Result 2019年6月8日(土)・9日(日)
会場:旭化成大体育館
主催:岡山県社会人バレーボール連盟

[予選リーグ・第1試合]

倉敷 2 [25-13] 0 IPUクラブ (岡山県)
アブレイズ 2 [25-19]

[予選リーグ・第2試合]

倉敷 2 [25-11] 0 OLIVE (鳥取県)
アブレイズ 2 [25-11]

[決勝・順位トーナメント戦・第1試合]

倉敷 2 [25-21] 0 ENJOUE (島根県)
アブレイズ 2 [25-9]

[決勝・順位トーナメント戦・第2試合]

倉敷 2 [25-18] 1 IPUクラブ (岡山県)
アブレイズ 2 [20-25] [26-24]

NextGame

2019
7/20・21
[SAT] [SUN]

次回参戦
決定!

実業団選抜男女優勝大会
主催:日本実業団バレーボール連盟
三郷市勤労者体育館
三郷市立高州地区体育館
会場・スケジュール等はホームページに掲載します。

REPORT
02

メンバーレポート

「ミドルブロッカー不在はチームにとっても痛い」 暫定キャプテンを盛り上げる新メンバーの活躍。

コートの外からでもできること

1番高橋が練習中の負傷で戦線から外れたことは大きい。セレクションの時から監督にチームをまとめる役を命ぜられていた高橋は、チームの中ではまとめ役をかっていた。ポジションも身長がある選手なので、ブロッカーとして前衛守備の要ともいえる役割を担っていた。ゆえに監督も「ミドルブロッカーが不在となるとチームとしては痛い」と語るほど信頼は厚い。高橋も離脱においては、「チーム結成から2ヶ月足らずで、練習する時間も少なく手探りの状態で色々なプレーを試していた。監督は練習時から選手自らが声を出すことを意識させ選手同士で役割や指示



をさせるプレーを目指している。選手一人一人が自立し責任を持ち仲間を信頼することでチームがまとまり更なるレベルアップに繋がると思うし、コートの外からでもできることはたくさんあります。」と負傷した体でもチームのことを常に思う気持ちは誰よりも熱く感じた。

新キャプテンのチームへの想い

伊東は、新キャプテンに任命されても落ち着いた様子だった。チームの中でもキャリアが豊富な選手でもある伊東は「本気でプロを目指したいと意識しているチーム。本気で勝ちたいと思えるチームであり、技術やスキル以上にその想いが他のチームとは全然違う」と話しをしてくれた。決勝戦のIPUクラブとの試合を振り返ってもらった。優勝は勝ち取ったものの第2セットを

落としフルセットまで持ち込まれ接戦になったことを聞くと「体力的には問題なかった。ただ接戦になったときの考え方や1点の取り方、精神的な弱さが出てしまった。そこは練習で作るのが難しいので経験を重ねて強くなっていくしかない」と前向きに語る新キャプテンにはすでに次のステージでのチームの活躍がイメージできているようだった。

チームを救うラッキーガール登場

チームが勝利するには必然といえる「ラッキーガール」。今大会チームが幾度となく沈みかけた時に救いの神が宿る瞬間があった。それが6番仁熊のプレーだった。仁熊は持ち前の実直さと攻撃とともにこなせるマルチタスクなプレーヤーとしてその能力を発揮した。チームにとってこうしたラッキーガールの存在は大きい。まだまだ成長著しいチームの中で今後の期待が大きく膨らむ。

